

【研究会抄録】

日本東洋医学会中四国支部島根県部会
第19回学術総会講演会

日 時：平成20年10月18日 16:00~19:00

会 場：松江テルサ（4F 大会議室）

大会実行委員 長：内海 康生（松江市）

県 部 会 事務 局：児玉 啓介（出雲市）

【市民公開講座】

「銀メダルと銅メダル」「今輝く島根の遺産」

山陰中央新報社 論説委員長

松本 英史

銀メダルとは昨年夏にユネスコの世界遺産に登録された石見銀山遺跡のこと、銅メダルとは国宝に指定されている荒神谷遺跡から出土した358本の銅剣、加茂岩倉遺跡から出土した39個の銅鐸のことを指す。358本の銅剣の数は、それまで全国から出た全ての銅剣の数より多い、39個の銅鐸も1箇所から出た数では滋賀県野洲町の大岩山遺跡の24個を上回り、圧倒的な多さ。銀では世界の宝、銅では日本の宝となるわけだ。金メダルがないのは残念だが、地味な点では島根らしいということか。島根の宝について、石見銀山を中心に紹介したい。

世界には2008年7月現在で878箇所が世界遺産に登録されているが、日本ではわずか14件。石見銀山は産業遺跡としては日本初、それどころかアジアでも初めて。石見銀山のピーク時は1596年から1614年の約20年間で、人口も最低でも2、3万人（難波の堺が3万人）で年間15トンの銀を産出した記録がある。450年前に職場と住むところが同じという、理想的な鉱山都市があったわけで、人が山から降りるのではなく、人や物、金、文化が山に運び込まれ、磁石のような山だった。爆発的に銀が産出されたのは「灰吹き法」という、当時のハイテク技術があったからである。発掘調査は全体の0.1%ほどで全体像は殆ど解明されていない。専門家は次の世代を担う研究者が50年、100年かけて研修すべき価値のある遺跡だと言っている。島根には先人が残した素晴らしい遺産が数多くあるので、ふるさとに自信を持ってもらいたい。

【特別講演1】

「神経疾患の漢方治療」

島根大学医学部内科学講座内科学第三

山口 修平

漢方療法は医学教育コア・カリキュラムの薬物治療の基本原理に加えられ、和漢薬を概説できることが医師としての必要条件となっている。これまで漢方薬はその独自の診断症候学から西洋医学的観点からのエビデンスが十分とはいえなかったが、最近徐々に優れた治療成績が報告されるようになった。神経疾患でも多くの症状に対して、漢方薬の効果が確かめられている。本講演では認知症に対する漢方薬治療の現況を中心に報告した。当帰芍薬散はエストロゲン分泌作用やアミロイドβ蛋白による細胞障害を抑制する作用が知られており、アルツハイマー型認知症の治療や進行予防に有効である可能性がある。釣藤散も認知機能改善作用が動物実験で確認されており、軽症の脳血管性認知症患者に12週間使用した所、前頭葉機能や認知機能の改善が認められ、このことは事象関連電位により脳電気活動の面からも確認できた。桂枝茯苓丸は瘀血病態に使用される事が多く、循環改善作用を介して脳血管障害に有効と考えられる。無症候性脳梗塞の患者に3年間使用したところ、抑うつ状態の有意な改善が認められた。認知症が進行すると記憶力障害に加え、幻覚妄想など様々な精神行動異常を呈することがある。これに対し抑肝散が有効であることが確認されている。特に薬物副作用の出現し易いレビー小体型認知症に有用であると考えられる。今後、漢方薬の薬理作用の解明に加え、多くの神経疾患での治療効果のエビデンス蓄積が待たれる。

【特別講演2】

「私が学んだ山本巖流漢方医学」

大東市・高橋皮膚科 高橋 邦明

大阪市大皮膚科在職中の昭和50年代半ばから、故・山本巖博士のご診療を十数年間にわたって見学させていただき、先生の実証主義的な漢方医学の考え方と実際についていろいろ学ばせていただくことができた。

まず、証とは患者のすべての情報であるとの認識のもとに、漢方治療で最も重要なことは、病をどのようにとらえ、どのように治療をするのかという点である。そのためには、西洋医学的な手法も含めてできるだけ詳細に病態を把握し、漢方生薬の薬能を熟知した上で、その病態に合わせて生薬を組んで対処することが必要であることを常に強調されておられた。そして、古方、後世方、一貫堂医学、中医学などの区別なく、必要と思われる処

方はどんどん使用しておられた。

一貫堂処方では、瘀血に対しては、熱証型には通導散加桃仁牡丹皮合防風通聖散、寒証型には芎歸調血飲第一加減を使用され、瘀血とは駆瘀血剤で改善されるすべての病態であるとの名言を残された。血熱に対しては、竜胆瀉肝湯加柴胡合防風通聖散を頻用された。防風通聖散は、病邪を追い出すための基本処方としてこれら一貫堂の瘀血証や解毒証の方剤にもほぼすべてに合方され、また、ごく少量を補剤として活用されていたことが大変興味深く感じられた。

その他、アトピー性皮膚炎には小児に補中益気湯、成人に通導散、アレルギー性鼻炎には麻黄附子細辛湯、風邪には参蘇飲、乾癬には駆瘀血剤+温清飲、軟属腫には薏苡仁など非常に有用な方剤の運用法も本当にいろいろお教えいただいた次第である。